



とつか

2020年7月会報 第309号

- 2020 国際会長(IP) Jacob Kristensen (デンマーク)
- 主 題 “VALUES, EXTENSION and LEADERSHIP” (価値観、エクステンション、リーダーシップ)
- スローガン “TRUST IN THE RIVER OF LIFE” 「命の川を信じよう」
- アジア太平洋地域会長(AP) David Lua (シンガポール)
- 主 題 “Make A Difference” 「変化をもたらそう」
- スローガン “INSPIRE” 「奮い立たせよう」
- 東日本区理事 (RD) 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)
- 主 題 「変化をたのしもう！」 “Let’s enjoy Changes.”
- 副 題 「助け合い、分かち合い」 “Let’s help and share each other.”
- 2021 湘南・沖縄部部長(DG) 古田 和彦 (横浜)
- 主 題 「クラブを超えてワイズ間の交流を図り、共に YMCA に仕えよう」
- クラブ会長 若木 一美 ・会長主題 「咲かそう 人の輪」
- 副会長 浦出 昭吉 書記 加藤 利榮 会計 岡 進



会長ひと言 若木 一美



『咲かそう 人の輪』

い

横浜とつかクラブ第28代会長を務めさせていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

今期、多くのクラブ役員の皆さんは、スッキリしない気持で就任される方が多いと思います。

さて、ブリテンエディター(?)から、‘主題、その心は?’と、お得意の謎掛けを迫られました。私に関係する日本民謡新舞踊協会では、毎年、その年の盆踊り曲二曲を発表します。(数年前はダンシングヒーロー、大阪の高校生の振付が有名になりました。高齢者には、あれは無理です…!)

今年は「日本盆唄」で、その中に「…咲いた咲いたよ人の輪咲いた、老いも若きもまたまた咲いた…」とあります。この2月以降はコロナ対策のため、‘咲かすな 人の輪!’ですか…。コロナが終ったら私たちの運動の原点‘咲かそう 人の輪’ですよネ! ワイズ樽を囲んで、太鼓の音に合わせ、老いも若きも楽しく踊りましょう…。‘日本盆唄’の続きは「…咲けばお囃子 またまたはずみ 日本全国盆踊り…」で終わります。

本題にもどり、‘主題’、その心は私たちもより友好関係を深め、‘遠きも近きも皆 捧げて立つやワイズメン’になるようお願い、みんなで力を合わせ…、この1年、よろしく…。

◎今月の聖句◎

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内に

るように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになります。

—ヨハネによる福音書第17章21節—

この御言葉は申すまでもなく私たちワイズの心の拠り所ともいべき、国際聖句です。日ごろの奉仕活動が、この聖句のすべてに包まれています。ワイズ年度の初めに当たり、この1年を主のみ力を頂きながら活動して参りましょう。

強調月間 キックオフ・Yサ・ASF・RBM

7月はワイズの年度始め、例会は総会になります。向こう1年の活動方針や予算などを決め、着実に実行に移しましょう。区が集めるYサ・ASF・RBMの各資金、これらは国際へ送金されます。中でもRBM, Roll Back Malaria、国連が提唱、世界的規模で流行するマラリア撲滅キャンペーン、ワイズでは殺虫剤が塗布された蚊帳を寄付するための募金活動を行っている。いずれも、定められた額を区宛てに献金し、区は集まった金額を国際協会に送付している。

ロースターの7ページに献金額の目安が表示されています。

6月在籍者数	6月出席者数	出席率	ファンド	B	F	B	F	CS・TOP・A S F	B A P Y	ロ	バ
メ ン	13	メ ン	0	0%	他	(円)	(g)	(円)	(円)		(円)
メネット	8	メネット	0		前月迄		0	0	0	0	0
		ゲストら	0		当 月		0	0	0	0	0
計	21	合 計	0		累 計		0	0	0	0	0

☆湘南・沖縄部の「つながりマスク」☆

鎌倉クラブ 千葉 裕子

会合の中止は、2月の湘南・沖縄部の部大会からでした…。かなり直前になっての中止でしたので、「えっ できたのに！」と思うくらいで、コロナがこんなに大変な事になるとは思っていませんでした。その後、3月の次期会長研修会も中止！…そしてクラブの例会などもすべて…。得体のしれないウィルスのため唯々不安だけが増し、どうして良いか分からない中、山手クラブの浅羽さんからの「…こんな何もできない今こそマスク作りを…」とのご提案、早速賛同した部のエクステンション委員会（辻剛委員長）を中心とする「つながりマスク事務局」が発足、地域の方々もお誘いし EMC 活動にも…との思いも集まることもできず、結局は、各々個人で製作することとなりました。5月22日(金)の ZOOM での打合せを挟んで5月中に各自で作製、集められたものは湘南とつか YMCA を通じて贈呈・発送…という段取りでスタートしました。

貼りました。贈呈先は、とつか YMCA の学童クラブとリーダーの皆さんに 146 枚、横浜中央 YMCA の留学生に 141 枚、それと、マスクにハッカの爽やかな香りを付けては…との加藤さんからのご提案で、北見クラブの二本松様から、そのサンプルを送って頂きましたので、北見クラブにも送らせていただきました。

私は、コロナで仕事の方も自粛が続き、不安な毎日、マスクを作ることで気持ちが集中でき、離れた処での作業も共に頑張っていることがとても嬉しく、作りながらどんな方がこのマスクをされるかな…などと考えながら楽しく作らせていただきました。皆さんと仕分けを終えた今、ちょっとした幸せ・満足感の日々です。まだまだ出口の見えないコロナ…、今回は9月末を目途に、皆さんと、この作業を続けてまいります。

今回、マスク作りに加わってくださった皆様、円滑に気持ちよく YMCA を使わせてくださった山中館長、瀬戸担当主事、そして、素敵な香りを届けて頂いた北見クラブの二本松様、誠に有り難うございました。



6月16日(火)、マスク事務局の皆さん、それと湘南とつか YMCA に繋がりのお力を頂いた加藤さんの計5人とつか YMCA に伺い、瀬戸担当主事やお忙しい中を館長の山中さんまでお顔を出されての贈呈、今回は4クラブ・9人の方々から計306枚が集められました。さらに、つづきクラブの今城さんの「皆さんの健康が守られますよう心を込めて作りました。湘南・沖縄部」と書かれた素敵なシールも



☆NHK がニュースの時間に…☆

加藤 利榮

たまたま観ていたテレビに、「北海道北見地方に伝わるハッカがこの梅雨時のマスクにちょっとした清涼感が…」との6月6日ごろの放送に、「そうだ、もしかしたら…」と、トカチの山田理事宛てメールを入れた処、早速ご手配いただき、同13日に北見の二本松さんからメールで、「…昭和の初め頃まで盛んだった

ハッカ栽培も、化学合成品の普及でいつしか消え、今では市内にその名残として、「薄荷記念館」があり、僅かに往時を偲ぶ状況で、商品としては、登山用スプレーとか虫よけスプレーなどあるが、マスクに使用している人もあって、地元では「今更…」という状況にある。中には過度に使用して涙が止まらないという人もいる。所が、薄荷が先だっただけのテレビ放送のお陰と、ふるさと納税の対象にもなっているので、今、ちょっとしたブームです。サンプルをお送りするのでお試しく下さい…」ということで、ハッカ飴のオマケ付きで、写真にある様な見本が送られてきました。そして千葉さんが書かれているように、活用させていただきました。

北見には想い出があります。1991/92年区理事であった当時、北部（今の北海道部）部会が北見で開かれ、すでに故人となられた当時、部長で北見クラブの目黒卓司さん宅に二晩ご厄介になり、上記の薄荷記念館も見学した覚えがあり、これも「つながりマス

☆久しぶりに…☆

若木 一美

のご縁かと、今更ながら感新たなものがあつた次第です。

6月23日(火)17時から、湘南とつか YMCA 201号室において、加藤書記の呼び掛けで、当面のクラブ運営等につき、ごく内輪に協議しようとして集まりました。…と申しても、浦出会長と岡会計担当はご都合で欠席、結局、私のほかは加藤ワイズと瀬戸担当主事の3名でしたが、協議は短時間ながら大変に中身のある内容となりました。以下、順を追って説明します。

- ① 7/4(土)の総会関係
全般的なナガレは例年どおりとするが、今年はコロナ禍の影響で、個別的部分については検討の余地がある。
- ② 開会時のワイズソングは省略し、信条は司会者が唱えるにとどめる。
- ③ コグニサイズと食事については、YMCA ホール内ということもあり、今回はナシ。
- ④ 会長引継のシルシはギャベルとする。
- ⑤ 山中館長の入会式関係
ア キャンドルは使用しない。
イ 区事務所が閉鎖中なので「異動届」が遅延している。
ウ 形式的なことより実質的な内容を目指す。
- ⑥ UniLeaf への支援等は従来どおり実施する。
併せて、古田部長に部としての支援も要請する。
- ⑦ クラブ協議事項及び伝達事項は最小限にとどめ、具体的・細部事



【特別寄稿】

「助け合い、分かち合い」

東日本区理事 板村 哲也 (東京武蔵野多摩)

今年度の理事を務めます。どうぞよろしくお願い致します。

日ごろは強く意識しないことが、コロナ禍で改めて問われています。その一つが、「助け合い、分かち合い」ではないでしょうか。

科学者の研究では、助け合い分かち合いの心は10万年前にヒトが人間になれた理由で、現在の人類がDNAとして持っています(2012年放送、NHKスペシャル「ヒューマン なぜ人間になれたのか」)。

アフリカの洞窟で発見された10万年前の首飾りは、ヒトの集団の一員としての象徴であり、その背景には分かち合いの心があったと分析、説明しています。また、弱小生き物集団のホモ・サピエンスには多くの集団があったが、そのごく一部が、この助け合いの心を持ち、それを発展させてきたことで、環境の変化がもたらす難局を何度も乗り切って、現在の人類になったと伝えています。助け合い、分かち合いは、民族、宗教、イデオロギーが異なっても、誰もが共通して持つ“人間らしさ”であり、ワイズの基本と考えます。

コロナ禍で苦しんでいるのは一部の人たちではなく、社会の全員であり、全員がお互いに助け合い、分かち合っていかなければ生きていけないでしょう。「3密」の活動を多く行ってきたワイズですが、顔を合わせることが出来ない中でどのようにして仲間と、そして社会と絆を保っていくかが求められます。新たな手法で、繋がりを強化、発展させることもできるのではないのでしょうか。また、勤労奉仕型の貢献・社会活動ができない今は、より大きな経済的な助け合い、分かち合いが求められるのではないのでしょうか。YMCAとの協働もより求められるでしょう。

環境に適応しないと、即ち自分が変化しないと、淘汰され、衰退、滅亡します。ワイズも例外ではありません。創意工夫をして活動を続けて行きましょう。変化を楽しみましょう！

(板村様、お忙しい中、素敵な原稿を有り難うございました。)

レザン通信

横浜YMCAワークサポートセンターレザン 相馬 良文

世間では、連日、感染者数が報道されています。6月に入り、YMCAプログラム再開と足並みを合わせ、「カフェ レザン」も営業を再開しました。1週目は、お披露目のためカフェのみ営業し、2週目からランチも再開しました。1日のお客様は4~5組程度でお子様連れのママ友の受入れは、控えていただいている状態です。再開を喜んでくださるお客様の声に、メンバーたちも力をもらっています。YMCAでは、施設を定期的に消毒し、安心して参加していただけるようにしています。

レザンでは、月曜と木曜の午後の活動として、YMCA館内の消毒作業を行っております。午後1時から3時まで、広い館内の消毒はやりがいのある作業です。「人が触ったところをきれいにする。」目に見えないものへの取り組みは苦手な方もいますが、自分が使う場面を再現するなどの工夫をしながら取り組んでいます。



☆ヤマテの解散に想う☆

加藤 利榮

6月11日、「我孫子」の消印のある封書が届いた。もしや…と思いながら開けると、功能文夫さん差し出しの山手クラブ解散のご挨拶状です。『ああ ヤッパリ…。』と絶句、一字一句・何度となく・ユックリ読み返しました。ヤマテ「解散」の文字が出たのは、山手2月号ブリテンが最初ではなかったかと思えます。以来、気になってはいましたが…。そして同文の「あいさつ」が6月号にも…、やはりそのご決意は固かった…。かつて、「南東部」と呼んだ時代には、常に部の先頭に立って私たちを導いてくれたなあ…などと功能さんからの書信を前にして、感傷めいたものが去来します。

偶々取り出した「日本区会員名簿・1968年版」の「山手」の欄には、ベル・モードの筒井康さん、早稲田診療所の田辺正忠さん、YMCAの星野達雄さんや池田鮮さん、そして忘れられない奈良信さんや鈴木田通夫さん…と、総勢32名の皆さんが名を連ね、皆さん40~50歳台がほとんどです…。これは、何もヤマテに限った事ではありません、日本、否、全世界のワイズメンがこの年齢で大張り切りの時代だったなあ…。11年後の79年の10月に1か月間、BF代表としてアメリカ・カナダを訪問した時も、どのクラブも皆同じような年齢構成で、その活躍振りに目を見張ったものでした…。そして、今や海外どころか、私たちのクラブも平均年齢が…の時期を迎えています…。ヤマテを「対岸の…」に終わらせないためにも、今こそ「Change! 2022」を…。

【哀惜】

☆第40代日本区理事として☆ 加藤 利榮



「奉仕クラブは会員相互の親睦が第一」の小堀理論を身をもって実践された岡本尚男さんが5月31日の明け方、お亡くなりになった。彼とは今から35年ほど前の1985年の春、チャーターされて間のない京都キャピタルクラブのメンバーであった彼に、横浜クラブのF会長が、どうしてもお会いしたい…ということから、当時、中華街でご一緒したのが始まりでした。おとしの98年10月のとつかクラブのブリテンには「特別寄稿」も頂き、また、キャピタルとのブリテンの交換が彼を介し20年以上にわたって続き、手許には洛陽社装丁に成る12年分のとつかのブリテンが、ひととき異彩を放っております(写真)。そして、忘れられないのは、第40代日本区理事であった彼が、前年の阪神大震災にもめげず95年6月3日、区大会を国立横浜国際会議場に国内外から1,230名を集めて開催し、登壇した彼はふた言目には涙しながら、21世紀を見据えた「ヨコハマ宣言」を提案し、採択されました。地域に在っては民生委員などもされ、時折、当方も相談に乗ったことがありました。この5月10日に頂いたキャピタルクラブ5月号ブリテンの「添え書き」がよもや、私への絶筆になろうとは…。

この上は、都様、尚男さんの分も長生きされ、どうぞHANDBOOK & …ROSTERを



今後とも続けて頂けますよう
心より願っております。

(午)

☆YMCA だより☆

担当主事 瀬戸 俊孝

～ニュースタANDARDへ…～



新型コロナウイルスの感染はまだまだ収まる様子は見られませんが…。そんな中で6月からは、少しずつ社会活動も再開してきました。YMCA もスポーツ関連の事業は、一部制限がありますが、6月1日から成人のスポーツクラブ、キッズの水泳、体操などのクラ

スは、再開しました。

キッズの人数が多いクラスは、半分ずつの分散運営（小学校などと一緒です…）、成人のスポーツクラブは人数や時間の制限をしての再開です。もともと、在籍していた会員の約1/4は休会でお休みはしていたものの、徐々に参加する方が増えてきております。

7月からは、更に緩和してほぼ以前と同じ人数が参加するような状況まで戻ってきています。しかし、我々の対策は、今まで以上に厳しく徹底しないとイケないと思っております。

例えば、館内の消毒、プログラムの調整（呼気の上がるものは控える）、指導者のマスク等々、対策は様々です。施設は開放しましたが、サウナ、観覧席、ドライヤーなどは利用を控えてもらっています。

「今までの様に…」 「以前の形には何時になれば…」 とのお問い合わせがよくあります。しかし私は、以前の普通の体制に戻ることはないと思います。新しい「普通（スタンダード）」を少しずつ確立していきます。

このように厳しい状況の中、嬉しいニュースも有ります。夏のキャンプを候補地も絞り、本数も絞り企画しました。このような状況下で果たして集まるのか…不安でしたが、結果としては、三浦 YMCA で行うキャンプはほぼ定員になりました。ここでも、今までどおりには運営できないので、新しいキャンプ体制を創っていきます。

この夏も多くの子どもたちが笑顔で活動できるようにしっかりとニュー・スタンダードを創っていきます。

☆今月の歳時記から☆

‘西瓜の花 すいかのはな’ と ‘梅雨明け つゆあけ’

‘西瓜の花’、梅雨のしとしとと降る頃、西瓜畑には、淡黄色のささやかな花が開く。果実の大きさに比べ、なぜか、花は小さく可憐で、雨に濡れて可哀そう…。

花は各葉腋につき、雄花と雌花の別がある。茎は地に這いながら枝を伸ばして繁茂し、あの大きな実を付けていく。

川音と土堤を隔てて花西瓜 花 風
道にまで西瓜の花のさかりかな 除夜子

次に‘梅雨明け’、入梅の後三十日ぐらいで梅雨は明ける。平年で、沖縄は六月二十二日頃、鹿児島は七月十五日頃、大阪・東京は七月十六日頃、青森は遅く七月二十五日頃である。

うっとうしかった梅雨が明けると、本格的な夏となる。

コロナ騒ぎに明け暮れた今年は、果たしていつものように、‘梅雨明け’が経巡ってくることやら…。

山の上に梅雨明けの月出でにけり 癖三酔
梅雨明けし各々の顔をもたらしぬ 楸 邨



☆7月・8月のこよみ☆

>7/4(土) 第1例会(総会)・湘南とつかYMCA/19:00

>7/21(火) 第2例会・湘南とつかYMCA 205号/18:30

>7/27(月) 第2回湘南とつかYMCA 運営委員会/18:30

～Happy Birthday～

土方喜美代さん 7月26日

【掲示板】

会 長

◎ 7月の会合について

久方振りの会合は新年度第1例会(総会)になります。

- ① 当日は「総会」のほか、山中館長の「入会式」も行います。
- ② 古田和彦部長(横浜)と部書記の伊藤誠彦さんが公式訪問されます。
- ③ UniLeafの天下利栄子代表が出席されます。
- ④ 当日は会食とコグニサイズはありませんが、茶菓類は適宜お持ちいただいて結構です。飲み物は当方で準備します。
- ⑤ 開会は19時です。
- ⑥ 第2例会(7/21)も、予定通り開催します。
- ⑦ 会合の変更等が出ましたら、連絡します。

◎ マスクが取り持つ…(この項:加藤書記より)

- ① 「つながりマスク」に関連して、ハッカの見本を送って頂いた北見クラブの二本松能敬様にも、お礼方々千葉さんから「マスク」を少々送っていただきましたが、6月27日、彼から以下のメールを頂きました。
- ② 「…家内が、仕事の関係でマスクが必要なので大変助かりますが、地元の北見YMCAにも贈呈することも考えたい。YMCAではいくらあってもいいようだ。今の時点では、依然としてハッカの入手は困難な状況にあります。また、ハッカの関係などで何かありましたらご連絡ください。この度は、良い繋がりが出来たと思います。有り難うございます。」

◎ 「会員ひと言」執筆予定者

- ① 毎月発行するクラブ・ブリテンの冒頭に所載する「会員ひと言」の執筆予定者は下記のとおりです。都合により、予定者が変更されることがあります。
(前期) 8月号: 有田征彦 (後期) 1月号: 吉原 訓
9月号: 浦出昭吉 2月号: 柴原和可
10月号: 大高 聡 3月号: 鈴木ひろ子
11月号: 岡 進 4月号: 瀬戸俊孝
12月号: 山中奈子 5月号: 土方喜美代
- ② 7月号と6月号は、若木会長が担当する。
- ③ B/Eは、あえて外しました。

—敬称略—

(後記) クラブの会合が復活しても、以前のような‘手放し’の状態には戻らないかもしれませんね…。With CORONA…の日常でしょうか…。‘禍を転じて…’となりますよう…。 REMEMBER! …‘Change! 2022’

(1/1)